

望 み を 持 っ て

聖書朗読 詩篇 71 : 14 ~ 24

しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、驚のように翼をかって上ることができ
る。走ってもたゆまず、歩いても疲れない。 イザヤ 40：31

誰にでも、目をつぶってでも自然に出来ることがあるでしょう。ところが、状況が変わると、例えば、病気が長引いたり、誰かのお世話で忙しくしていたり、あるいは、怪我などが完治するまでの間など、それまで自然に出来ていたことがうまく出来なくなることがありませんか。そんな時は、それまで自然にやっていたことをやる気力が失せているのかもしれませんが。それまでこなすことの出来た賜物を再び取り戻し、「普段の自分に戻った」と言えるようになるまで、しばらく回復期間が必要でしょう。

療養施設に入所しているある友人を訪ねた時のことですが、彼は1994年から全身麻痺であると、過去を振り返りながら話してくれました。怪我をする前はとても活動的でしたが、今は、電動式車椅子に乗り、家で自立した生活が送れるよう在宅支援を受けています。けれども、「望みを持ち続ける」ことを学んだと言っていました。「僕は首から下は動かすこともできないけれど、この部屋を訪ねてくる友人たちを励ますことなら今だって出来るよ」。

この希望の証を聞いて、私は詩篇71：14を思い出しました。『しかし、私自身は絶えずあなたを待ち望み、いよいよ切に、あなたを賛美しましょう。』

讚美歌 31

祈り 親愛なる神様。私たちにいつも忠実でいてくださり、永遠の望みをお与えくださり感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ブルーデンス・C・ウィリアムズ
フロリダ州 ジャクソンビル

今日の力

2013 年 6 月 24 日～6 月 30 日

翻訳 藤岡伸子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

6月25日(火)

瞬 間 に

聖書朗読 詩篇 90：1～10

飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。

ピリピ 4：12～13

人生というものは、瞬時にして変わり得るものではないでしょうか。この先何が起こるかなど、ほとんど予測不可能です。そして、そのような経験をするうちに、私たちは、周囲の人を支配することなど出来ないということを学ぶでしょう。モーセの歩みは、人生における不確かさを教えてくれますが、彼はそのような中において、唯一確かな存在である神に語りかけているのです。

モーセは自らが予期せぬ状況に陥ったとき、神こそ堅固な岩であることを知っていました。祈りの中で神の力を讃えています。私たちが手に負えない状況にあるとき、さらにその状況がどのような結末となるのか全く予測できないようなときでさえ、祈りによって守られるのです。

私は事故で母を亡くしましたが、そのことを通して、神の存在が何よりも増して深く真実あることを知りました。神は「失うこと」がどのようなものかをよくご存知です。何より、ご自身の御子を捧げてくださったのは神なのですから。

この世にあっては、人生を生き抜くことが私たちに課せられた課題なのかもしれません。15年であろうと、65年であろうと、95年かもしれませんが、いくつまで生きようと、大切なのは、神に忠実であることです。神は、私たちの罪と、私たちの思い煩いをご存知です。そして、今もそうした思い煩いを神の元へ差し出しなさいとおっしゃっています。私たちが予測不可能なあらゆる状況に置かれたときに、慰めてくださるお方は、神である唯一の父のほかにはありません。

讃美歌 448

祈り 親愛なる愛なる父よ。私たちに、愛する人たちと、心の平安をお与えくださり感謝します。あなた様が、私たちの喪失感をよくご存知であり、確かな道と慰めをお与えくださることを私たちに気づかせてください。死にあっては勝利があることを思い出させてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

マーク・A・ヤング

ホンジュラス トウルジョコロ

6月26日(水)

永 遠 の 祭 司

聖書朗読 詩篇 110編

主は誓い、そしてみこころを変えない。「あなたは、メルキゼデクの例にならない、とこしえに祭司である。」

詩篇 110：4

メルキゼデクは不思議な存在に思われますが、聖書によく登場します。その祭司としての働きは、最高位の祭司であり、父のみもとへ私たちを導いてくださるお方、イエス・キリストを象徴するものです。メルキゼデクは、アブラハムが戦いに勝利した後、彼のもとに現れ、祭司として彼を祝福しました。さらに時が経ちモーセの時代には、神がモーセに、民らが神のもとに近づくことが出来るよう、幕屋を設けるよう仰せられたとき、メルキゼデクらは、礼拝と恵みの場を施しました。このことは、最高位の祭司、地上に來られ、私たちが神の御前に立つことが出来るよう道を備えてくださったお方を彷彿とさせるものです。

さらに詩篇110編で、ダビデは、メルキゼデクが永遠の祭司であると謳っています。マタイ22：41～46では、イエス様がこの詩篇の箇所を引用して、パリサイ人たちに、救い主はダビデの主であり、いかなる祭司の権威にも勝るのだということを示されています。

そして最後に、ヘブル6～7章では、この真実が語られています。「私たちはキリストを通して神に近づくことができます。キリストは永遠の祭司、救い主なのです」。

最高位の祭司は、私たちの弱さを憐れんでくださり、天の御国の王であられます。今日引用したメルキゼデクの箇所は、私たちに神のみこころを示すものであり、内容は一貫しています。神のみことばは、初めから終わりまで、キリストを通して神に近づくことができる大いなる恵みを、私たちに宣言してくださっているのです。

讃美歌 79

祈り 父よ。あなた様は偉大なるお方、私たちはあなた様のみもとへ招かれたという真実に驚かされます。

イエス様のお名前によって。アーメン。

エル・コーネル

ウィスコンシン州 ヒルスボロ

6月27日(木)

神のご計画

聖書朗読 詩篇 139:13~24

わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。

エレミヤ 29:11

私は、自分など無意味な存在で、何の影響力もないと感じるとき、自分の好きな聖書箇所を読みます。エレミヤ29:11と12です。神は私たちすべてに、繁栄のご計画を持っておられ、それは決して私たちを落胆させるものではなく、希望に満ち溢れ、神とともにいる未来を約束されたご計画です。

神が私に持っておられるご計画は、私が形作られるずっと以前から立てられていたのです。

神は、私が神を信じバプテスマを受け救われるというご計画を持っておられました。そして、神の御国で私に良き働きをさせられるというご計画ももっておられます。私の友人や家族のこともご存知です。私を通してその御愛を溢れ出させようとしておられます。今日、誰が私と会い、誰が神の恵みを必要としているかもご存知なのです。

人との関係を築く上で困難と感じるとき、神のご聖霊は、愛と喜びと平安を与えてくださいます。それらは、自分の力では決して得られないものです。平安、信仰そして知恵という恵みにより、私は日々の問題を克服することができます。神がご判断を下し、この世に恵みを施してくださることを忍耐強く待ちながら。自分では理解しがたいことが起きても、神の答えへの希望を確かにもつことによって、勇気が与えられます。神のご計画は素晴らしいものであることを信じます。

讃美歌 30

祈り お父様。あなた様を愛し、みことばに従おうとする私たちに、素晴らしいご計画を備えてくださり感謝します。この世の人生を終えたときに、あなた様のご計画してくださった永遠の家に帰ることが出来ることを感謝します。

イエス様のお名前により祈ります。アーメン。

アイサー・ロバート

フロリダ州 チーフランド

6月28日(金)

不安を消し去る神への信仰

聖書朗読 箴言 12:20~28

心に不安のある人は沈み、親切なことばは人を喜ばす。 箴言 12:25

この世にあつて、ストレスから完全に解放されている人などいないと思います。ストレスがあつても、見方を変えることは出来ると思います。イエス様は私たちにこうおっしゃっています。「この世にあつては試練に遭わない者はいない。しかし喜びなさい。私がこの世に勝ったのです。」

不安を抱えるというのはこの世の常です。例えば、将来に対する必要以上の心配や恐れに苛まれることでしょう。けれども、聖書は私たちに、そうした不安に立ち向かうことが出来るという希望を与えてくれます。まずは、あなたの神との歩みを堅くし、神様のご契約を思い出させてくれるような同じ信仰を持つ友らと交わりましょう。『親切なことばは人を喜ばす。』と箴言 12:25 にあります。

主にある兄弟姉妹たちは、あなたを慰め励ましてくれるでしょう。あなたに掛けられた「親切なことば」を覚えておきましょう。あなたの姿勢をよく吟味し、人生において真に大切なものを選び分けましょう。キリストの恵みの内に生き、その御愛と望みに目を向けましょう。

弟子らは、投獄期間中も讃美を歌い、投獄されている他の人までもキリストに立ち返らせました。暗闇にあつても、朗らかさと主の光を広げましょう。微笑み、親切心あるいは食事を分かち合うことで心が和まされ、希望の光と強さが与えられるでしょう。神の民、神のみことばは、あなたの見方を変えてくださるのです。たとえ不安によって、心の平安と喜びが失われそうな時でも。

讃美歌 280

祈り 親愛なる主よ。思い煩う私の心にどうか慈しみ与え、あなた様が約束してくださった平安をお与えください。あなた様にある兄弟姉妹と愛の交わりによって、ともに信仰を分かち合い、一つとなることが出来るようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ラレンダ・リリス・ロバーツ

カリフォルニア州 サウザンドオークス

6月29日(土)

自分でやる！

聖書朗読 伝道者の書 4：9～12

私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。…私たちは神の協力者であり、あなたがたは神の畑、神の建物です。

1コリント 3：6，9

私の長男は、幼い頃から自立した子で、何でも自分でやりたがったものです。「僕がやる！」というのが彼の口癖のようでした。彼には出来ないようなことでも。

このような特性は、モーセに見られる問題点ではなかったでしょうか。モーセは、奴隷から解放された多くの民を率いていました。重責を自覚しつつ、彼は何でも自分ひとりでこなそうとしていました。数え切れないほどの事柄を、毎日判断しなければならぬという重荷を抱えていました。モーセの義理の父は、彼の日々の仕事を見てこう言います。「あなたひとりでそれをする事は出来ません。きっと疲れ果ててしまいます。千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長として、有能な頭を立てなさい。あなたの重荷を軽くしなさい。彼らはあなたとともに重荷をになうのです」。(出エジプト18：13～23)

主は、主に仕える者らが、一人では重荷を負い切れないことをご存知です。モーセにはアロンとヨシュアを、エリヤにはエリシャを、そして、イエス様をご使命を果たすためには、12人の弟子を選ばれました。また、パウロには数多くの助け手を、長老らには執事、伝道者、教師をお与えになり、彼らが、与えられた役割を果たすことができるようになさいました。

誰か助け手が必要だと思ふことはありませんか。私はいつも助け手を必要としています。パウロは私に次のことを思い起こさせてくれます。『私たちの中でだれひとりとして、自分のために生きている者はなく、また自分のために死ぬ者もありません。』(ローマ14：7)。私たちは互いを必要としているのです。

讃美歌 第二編 81

祈り 親愛なるお父様、主にある多くの兄弟姉妹をお与えくださり感謝します。ともに働き互いに仕え合うことを学ぶことが出来るようにしてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

グローバー・シップ
テキサス州 オースチン

6月30日(日)

破られた約束

聖書朗読 伝道者の書 5：1～7

神に誓願を立てるときには、それを果たすのを遅らせてはならない。

伝道者の書 5：4

あなたは約束を破ったことはありませんか。私はいつもです。たいてい意図的に破るわけではないのですが。私たちは、出来るだけ約束を守ろうと努力するでしょう。けれども、約束をうっかり忘れてしまうとうなるでしょう。たいてい、相手に謝り、また別の約束をするのではないのでしょうか。

自分の伴侶や子ども、親しい友人との約束を破ってしまうことは、深刻なことです。神との約束を守らないことはさらに深刻なのです。けれども、そうと分かっているにもかかわらず、しばしば約束を破ってしまうことはないのでしょうか。こんなふうに言うことはありませんか。「主よ。もしあなたがこの問題を解決してくださったら、私は二度とこんなことはしません」。あるいは、「神様。もしあなた様が私の病を癒してくださったら、あなた様に献身することによって残りの人生を捧げます」。

私たちは、神のために生きると決意し、神の子となったとき、神に忠実であることを約束しました。神は真実で忠実なお方ですから、約束を真摯に受け止めてください。今日、私たちの約束を思い出し、守ることができるという恵みを感謝しましょう。主は我らの羊飼い、避け所であり、備えをしてくださるのです。そして、主の素晴らしいご臨在により、私たちは約束を守ることが出来るのです。

讃美歌 452

祈り 親愛なる主よ。どうか私を約束を守る者としてください。周囲の人との約束を守り、何よりあなた様との約束を破ることがないようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

セラーズ・S・クレイン・JR
テネシー州 ヘンダーソンビル